

1 学校教育目標
<p>地域社会と連携し、自然・文化・伝統を継承・発展させる活動に取り組み、高い意識をもって地域創生や地域貢献を担うグローバルな視点を持った、自ら考え行動できる人材の育成を目指す。</p>
<p>【学校経営目標】</p> <p>(1) 幼保小中高連携による発展的な英語教育と I C T 特定推進校としての発展的な I C T 活用教育を実践する。</p> <p>(2) クリエイトハイスクール指定校として地元自治体や企業等と連携・協働した探究的及び創造的な質の高い学びを実践する。</p> <p>(3) マンガ学科の設置及び普通科グローバル探究コースの開設により、地域活性化策に連動した新たな学びによる特色化を図る。</p>

2 本年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元自治体や企業等と連携・協働した探究的創造的な質の高い学びを実践し、本校の魅力を更に高める。</li> <li>・ 学校及び学科の特色を活かした教育活動を推進し、情報発信等を通じて本校の魅力を更に高める。</li> </ul>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	働き方改革を意識した業務改善に取り組む	持続可能な組織的な学校運営の構築	各学期の業務振り返りを行い、課題を分析・検証し、改善案を提示する。	学期ごとに学校行事や校務分掌の取組を振り返り、取組の検証や課題解決に向けた改善案の提示を、時機を逃さず実施する。	3. 2	生徒や職員へのアンケートにより、学校行事ごとに振り返りを行い、生じた課題の解決に努めた。来年度は、学科改編の完成年度を迎えるため、これまでの活動を総括する必要がある。
	本校の魅力発信に取り組む	マンガ学科及び普通科グローバル探究コースの入学生確保のための組織的な取組の実践	本校の日常的な教育活動を SNS や特設スタジオの活用により、定期的に情報発信する。	○オープンスクール・上級学校説明会において、高森町、コアミックス社、県教委と連携し生徒募集を行う。 ○TPC と連携し、校内スタジオを活用した、本校の魅力発信動画を作成し、情報発信を行う。	3. 5	○オープンスクールへの参加者や入試受検者の大幅な増加が見られ、四者で連携した生徒募集を展開することができた。  ○定例の情報発信委員会を実施し、TPC と情報共有しながら、学校行事や本校の取組について情報発信することができた。
学力向上	生徒が自ら学びに向かう力を育む教育活動の	シラバスと授業評価の充実	マクロルーブリックの視点を授業に反映できるシラバスと授業評価	○マクロルーブリックと連動した授業評価を作成する。	3. 2	○授業評価の項目に、各教科で設定したルーブリックに関する評価を加えた。

	研究		を作成する。	○授業に活用できるシラバスを作成する。		年度当初だけでなく、年度途中にもシラバスを確認する機会を持つことができた。
		授業研究の体制づくりと観点別評価の充実	教科を超えて授業づくりを行う体制を作る。	教科横断的な授業の実施に向けた職員研修を行い、それを反映させた研究授業を計画する。	3. 4	授業づくりワークシートを作成する職員研修を行い、教科を超えて検討した。そこで検討した授業について研究授業を実施する計画をしたが、1回しかできなかった。
キャリア教育(進路指導)	生徒の主体性を育むキャリア教育を推進する	地域連携事業とキャリア教育の一体化	協力機関と本校の目指す生徒像を共有し、キャリア教育の充実を図る。	○探究活動に係る広報物を作成する。 ○本校の目指す生徒像や生徒の育成方針についての周知計画を作成する。	3. 3	○探究活動に関するパンフレットを作成した。 ○本校の生徒育成に関するループブックを作成し、校内に掲示した。
		体系的な進路指導の確立	高森高校版進路のしおり「Lynx」の活用とキャリア・パスポート評価面談を実施する。	○高森高校版進路のしおり「Lynx」の活用計画を作成する。 ○キャリア・パスポート評価面談に係る研修を実施し、面談を通して得られた評価を分析する。	3. 3	○進路のしおりを学年ごとに計画、利用しながら生徒の進路意識の向上を図った。 ○学期末ごとに生徒は「高森高校生意識調査」に回答し、職員との面談をとおして自身の取組について振り返りを行った。
生徒指導	自らの強みを活かし、集団を意識して「自律的」に行動できる力を育成する	新しい生徒心得（令和6年4月改定）の理解と、自律する態度の育成	新しい生徒心得の実践	生徒同士が互いに規則を確認しあうような態度を育成する。	3. 3	新しい規則を理解した上での実践には多少時間がかかったが、理解と認識を促すために、生徒会を中心にし規則遵守の啓発を行った。
		「いのち」を守るための交通安全指導	交通事故・交通違反「0」を目指す。	警察などの外部機関と連携しながら、交通安全を啓発する。	3. 3	校則を見直し、自転車ヘルメット着用義務化を設定した。あわせて、高森署からヘルメット着用推進校に認定していただき、交通安全の啓発を行った。
		社会の一員としての生活態度を身につける。	近隣や地域の方々と心通うあいさつを励	保護者・生徒・職員が協力し、あいさ	3. 3	生徒登校時に朝から声かけを行った。保護者は、学

			行する。	つの啓発活動を行う。		校行事の実施にあわせてあいさつ運動を行っていただいた。
人権教育の推進	命を大切に する心を 育む指導 の充実を 図る	多様性を認め、 自他を尊重し行 動できる人権感 覚の育成	文部科学省が 推進する Well-Being (健康と幸福 感)を取り入 れ、生徒・職 員・保護者が 心身共に有用 感を感じ、自 尊感情が高ま る取組を実践 する。	○職員が生徒 へ「自分を語 る」ことを目 的とした、H R活動を実施 する。 ○自他の大切 さに気付き、 自他を認め寄 り添う取組と して、自分の 想いを綴る人 権作文や人権 レポートを生 徒・職員全員 で作成する。	3. 3	○学年ごとに、学 年担当の教員が生 徒に向けて自分の ことを語ることが できた。  ○教師側が自分語 りをしたことで、 生徒それぞれが自 分のことを振り返 り、これまでのこ とや思いを人権作 文として綴ること ができた。一方で その内容に対する 返しができていな い。
いじめ の防止 等	いじめを 見逃さな い、いじ めを許さ ない態度 を育成す る	組織的な未然防 止と早期発見	本校のいじめ 防止基本方針 (R2 改定)の見 直しを行う。	いじめの問題 に取り組む組 織の役割を再 確認し、新た な基本方針の もと、いじめ 防止を啓発す る。	3. 2	いじめ防止対策委 員会を中心に、組 織で様々な事案に 対応し、迅速にい じめの拡大を防ぐ ことができた。
地域連 携(コミュニ ティ・スクール など)	地域との 連携強化 による本 校教育の 特色化を 図る	普通科グロー カル探究コース とマンガ学科の 教育の特色化(魅 力化)の構築 と、これまで築 き上げてきた本 校教育の良さの 再発見	○魅力化委員 会が主査とな り、高森町、 コアミックス 社、県教育委 員会との四者 での連携協定 に基づいた魅 力化を推進す る。 ○普通科グロ ーカル探究コ ースの魅力発 信をさらに強 化する。	○四者による 本校の魅力化 に向けた定期 的な会議を開 催する。 ○小中学生向 け交流イベン トを開催す る。 ○総合的な探 究の時間に係 る成果報告会 を実施する。	3. 4	○月に1度の定例 の四者会議を開 催し、情報共有を 行った。 ○5年ぶりに南郷 塾寺子屋の開催 ができた。次年度 についても実施を 検討している。 ○7月に対面・オ ンラインの成果報 告会を実施でき た。参観者から 様々なご意見を いただいた。また、 高森町高校生議 会を開催し、町へ の提言を行った。 ○探究活動の成果 披露として、県立 高校学びの祭典で は、最大級のブー スを確保していた だき、本校の魅力 発信につなげた。 ○2年生普通科グ ローカル探究コー

			<p>○マンガ学科の魅力発信と地域連携</p>	<p>○高森町、南阿蘇村を中心とした地元（県内）での作品展示を実施する。</p> <p>○マンガ、イラスト素材提供やイベント協力など外部団体との連携を促進する。</p>		<p>スの学校設定科目において、地域の防災について学び、世界津波サミットに参加し外国人高校生との交流を行った。</p> <p>○高森駅、高森町内店舗、南阿蘇村Loop等の地元をはじめ、菊陽TSUTAYA、熊本COCOSA、県立美術館等での作品展示を行った。</p> <p>○KAB 目指せ甲子園ポスター原画、南阿蘇園章デザイン、高森町社会福祉協議会キャラデザイン等の制作や、熊本県警・熊本空港とのコラボ等、多方面との連携を図った。</p>
健康管理・安全管理	健康教育・保健教育を推進する	生活習慣の形成と心身の健康に関する生徒自身の自己管理能力の育成	講演会の実施や生徒保健委員会の活動を通して、心身の健康の保持増進を図る。	<p>○外部講師を活用した講演会を実施する。</p> <p>○文化祭発表や保健だよりの発行等保健委員会活動を充実させる。</p>	3. 2	<p>○高森警察署より薬物乱用防止についてご講演いただいた。</p> <p>○生徒保健委員連絡協議会に参加し、スマートフォンとの付き合い方について考える研修を受けた。それを受け、文化祭ではスマートフォンが心身に与える影響について発表を行った。</p>
	環境教育と防災教育を推進する	生徒・職員の安全に対する意識の高揚	<p>○4月のくまもと防災月間及び9月1日防災の日を機として、地域の特徴や季節に即した防災教育を充実させる。</p> <p>○実用的な危機管理マニュアルの改訂作業に生徒及び職員の意見を</p>	<p>○4月に全校生徒と全職員を対象とするAED講習会を消防署の指導の下実施する。</p> <p>○1学期に防災避難訓練及び消火器使用訓練を実施する。</p> <p>○2学期にシェイクアウト訓練を実施す</p>	3. 3	<p>○4月の防災強化月間中、AED講習会を歓迎遠足の直前にいき、実践に必要な行動に絞って訓練することができた。</p> <p>○5月に防災避難訓練及び消火器使用訓練を、生徒に発災想定時刻を告げない形式で、LHRに実施した。火災報知音が苦手な生徒への配慮が必要</p>

			取り入れ、全生徒と職員の防災意識を向上させる。	る。 ○学校行事ごとの災害避難計画を改訂する。 ○危機管理マニュアルの中で、特に災害対応に関わる初期動作を整理し、実用性を高める。	である。 ○11月にシェイクアウト訓練を実施したが、放送の音量が小さく、困惑した生徒が多かった。 ○学校行事ごとの災害避難計画を改定した。特に校外活動時の落雷を想定した行動を追記した。 ○災害時の危機管理マニュアルについては、本校の実情に応じて大雨、台風、大雪など、数日前から準備ができる災害と地震、噴火など突然起こる災害に分けて改訂する必要がある。
--	--	--	-------------------------	---	--

#### 4 学校関係者評価

○来年度は学科改編の完成年度を迎え、良くも悪くもさらに注目を浴びることとなる。初めてのことも多く、やるべきことも増え、さらには地域や周囲からの期待に応えねばならない。高森高校 All Team で一丸となって臨んでいただきたい。

○持続可能な組織的な学校運営を構築するためにも、職員の体調管理を含めた、働き方改革が必要である。外部との連携を図り、学校と地域が役割を分担し、学校運営を行うこともよいのではないか。

○地元からのマンガ学科入学生は多くない現状がある。小中学校の義務教育段階から、高校生との交流の機会を増やすなど、マンガ学科合格に向けて力をつけさせるような指導の場が増えることを期待する。

#### 5 総合評価

○普通科については、昨年度にご指摘いただいた、より効果的な情報発信の工夫について改善を図り、地元自治体との連携を中心とした交流イベントを多数開催し、地域のリーダーを育成するグローバルな取組を展開することができた。

○マンガ学科については、高森町・コミックス・県教育委員会との四者協定に基づき、組織的な取組として本校の魅力発信を実践することができ、オープンスクール及び入学志願者の増加につながった。

○働き方を意識した業務改善では、評価の平均は昨年度に比べ0.1ポイント増加したが、3.2と低かった。特に職員の約32%が不十分であると回答しており、昨年度に引き続き、これまでに取り組んできた業務について課題を検証し、組織体制を含めた見直しを図る必要がある。

#### 6 次年度への課題・改善方策

来年度は学科改編の完成年度を迎える。これまでの本校の創立77年の歴史を踏まえ、学科改編後の2年間の魅力化の取組をベースとして、さらなる魅力ある高森高校をどのようにして確立させていくかが大きな課題である。各学科の取組の充実はもちろん、学校全体の積極的な情報発信、多様な生徒に対する支援の充実など、時代の変化に対応した学校運営を推進していかなければならない。特に、1期生をはじめとした生徒の進路保障・進路実現は本校の至上命題である。その課題を解決するためには、地域に根ざし、地域に愛され、地域を元気にする学校として、これまで以上に地元自治体や企業・大学等と連携を深めなければならない。